

の母親の好酸球数を測定した。

病気の極期に著明に減少し、回復期に増加し、治癒期にやや減少（疫病）、治療期に増加（自家中毒症）の経過をとっている。

この子どもの経過の型と共に、病気でない母親も同じ変化を示している。これは母親の精神的の影響が肉体的に相当の変化を与えていることを証明するものである。

子どもの病気が母親に対して精神的 stress として働くことを科学的に究明し得た。

子どもを心配しすぎる母親、過保護の母親の精神的保育が大切であり、子どもを保育する上に環境条件として、母親の精神的環境を考慮に入れて、健康管理の大切な事項として、安全保護に万全を期さねばならない。

## 父—母—子関係の分析

東京 都立大学 三 浦 武

東京 家政大学 森 重 敏

NHK放送文化研究所 三 輪 正

**調査対象** 都内の幼稚園児五〇名、小学校三年生四九名とその父および母。

**質問項目** 「おとうさんはあなたといっしょによく遊んでくれますか」「あなたがたのんだこととおとうさんはいっしょうけんめいに行ってくださいますか」など、親子の接触につき日常生活で見られることについて幼児では二八項目、小学三年生では三二項目質問した。（調査C）。お父さんについて子どもにいろいろ聞いたら次に

お母さんについても同じことを聞く。答は「はい」「どちらでもない」「いいえ」の三段階でそれぞれ3点、2点、1点として整理する。次に子どもに聞いたのと対応して大体同じ趣旨のことを父親および母親に聞く。（父親にも必ず聞いた点がこの研究の興味だと思う。これは家庭訪問によらねばならず、苦心した。）（調査A）。次に、こういうことをお子さんに聞いたらお子さんはどのように答えたと思うか、その答え方を父母に想像させて答えてもらった。（調査B）。

**資料の整理** われわれの調査項目を親和、保護、意志尊重、圧力という四群にまとめ、それぞれ親和点、保護点などとして算出した。かくして得られたいろいろの得点につきA（父）——C（父）、B（母）——C（母）、A（父）——A（母）などの組み合わせについて検討する。

**研究結果** 調査Aで父と母を較べると母親の方が「意志尊重」の点が低い。「圧力」では父親の方が圧力をかけていないと思われている。接触総点の平均で見ると父より母の方が点が悪い。

これは質問内容が子どもの日常の世話に関するものだから母親が直接関与することが多いのでこういう結果が出たのではなからうか。

B—Cの絶対値の総和をもって親子間のずれの総量とみると父よりも母の方が子どもとのずれが少ない。母の方が子どもの気持がよくわかっているようだ。保護については父—子のずれが大きく、圧力では母—子のずれが大きい。A—Cでもやはり母—子のずれが大きい。

母親は圧力をかけていないつもりでも子どもは案外母親から強い圧力を感じているようだ。